

令和5年度幼稚園学校評価（稗原幼稚園）

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	
			達成及び取組状況	評価	評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	教育目標のもと、園児の実態に即し地域の特徴(自然環境や伝統文化、コミュニティスクールのおよ)を活かした教育活動を実施した。教育目標が小学校とつながるものになったことで、活動のねらいや経験させた内容をより具体的に立てることができた。職員全員で共通理解するとともに保護者にもわかりやすく伝えることができた。反省・評価した内容を教育課程に生かすよう努めた。	4	4	地域との関わりも多く教育目標のもと活動が行われていた。地域の特徴を生かした保育を継続していただきたいというご意見をいただいた。また、自然や伝統文化にふれる活動内容だったという評価もいただいた。今後も稗原の強み(豊かな自然、伝統文化、人など)を生かし、今年度の反省や評価を次年度の計画に反映し保育を進めていきたい。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の様子から課題を捉えて保育を行っているか。	異年齢混合学級のため、発達段階や個人差のある子ども達を1クラスで保育するという難しさがあるが、園児の遊びの姿を全職員で視点を変えて見る機会を設け、多面的に把握するとともに、個々の成長や課題については学期ごとに反省評価しながら、次の支援や指導に生かすよう努めた。園児の思いに寄り添う姿勢を基本におき、自立を促す支援を大切に、一人一人の発達に沿って育ちを支えた。	3.8	4	混合学級の良さを生かし、一人一人の個性や発達に合わせた活動・保育内容であったと評価いただいた。また混合学級(1クラス)を保育する難しさがある中、一人一人の子どもを理解し、全職員で共通認識をもった支援・指導について評価いただいた。これからは幼児理解を深め、一人一人に寄り添い、異年齢混合学級のよさを生かしながら、目指す幼児像に向かって保育を進めていきたい。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	常に職員間での情報交換に努め、担任の指導に沿って個別な配慮をしていくことができるよう話し合いを密に重ねた。声かけや支援方法については、基本を確認し、職員間で共通なものとなるよう心がけた。家庭や関係機関と連携し包括的な支援を行った。	3	3	子どもの課題について組織的に指導がされていること、様々な子ども達を理解し、幼稚園生活の中で成長を支えていることを評価いただいた。また、職員間で情報共有を図り、家庭や関係機関と連携し、包括的な支援をお願いしたいというご意見もいただいた。今後も職員間で情報共有し、指導や支援方法を共通理解しながら個々に合わせた支援に努めていきたい。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	人権・同和教育の視点を根底にもち、幼児の姿を丁寧に見取り、教育活動を行った。園児が自分の思いを素直に表すことができるような雰囲気作り、支援を大切に。また相手の気持ちに気付くことができるよう語りかけたり、場面を捉えて伝えたりした。日頃から職員が人権意識を磨き、園生活で幼児の人権意識が培われるように今後も努めていきたい。	3.8	4	幼児期に人権意識の芽生えを培うこと、トラブル時の対応の重要性についてご意見をいただいた。また思いやりや心の支えを友達への助け合いの姿から感じていただいた。これからは安心して園生活を保障し、友達を思いやる気持ちを育んでいきたい。日頃から職員の人権感覚を磨いていくとともに、今後も人権同和教育を基盤に据えた保育を構築していきたい。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	コロナ感染症5類移行に伴い、行事の持ち方を見直しながらコロナ禍前の行事をおおむね実施することができた。行事のねらいを明確にし、園児が心を動かし内容であるとともに発達にふさわしい内容や活動が実施できた。実施後は反省評価し、今後の計画に生かすよう努めた。今年度も地域資源を活用したり、地域の方々との協力を得たりし、貴重な体験ができ、園児の豊かな経験や成長につながった。	3.8	4	幼児の考えや意見が行事に反映され、生き生きと活動する姿が見られたという評価をいただいた。また行事の持ち方を見直し、工夫しながらの取り組みに評価いただいた。今後も子ども達により豊かな経験を積み重ねていくよう、行事や活動のねらいを明確にし内容等工夫しながら、育ちを支えていきたい。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	コミュニティスクール間で日頃から情報交換をし、密な連携を図ることができた。小学校とはおおむね各学年と交流活動等、年間を通じて様々な活動ができ、親しみや憧れの気持ちを抱くことができた。2学期には幼小情報交換会を計画し、保育を公開し話し合う機会を設けることができ、貴重な情報交換・学び合いの場となった。育ちをつなぐ架け橋プログラム作成に向かうことができたことも成果と考える。	4	4	コミュニティスクールの利点を活かし、小学生との交流活動や連携から、子ども達の成長につながっている。よい関係性が構築されていると評価いただいた。ロールモデルとしての小学生の存在・姿が子ども達の成長に大であるという点と、また未就園の子ども同士の交流や近隣幼稚園との交流が園児との関わりの中で良かつ評価いただいた。今後も情報交換や連携を密にし、幼小のなめらかな接続に努めるとともに、幼稚園や同世代同士、横の広がりや深まる活動の工夫をしていきたい。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域(未就園児等)との協力関係はできているか。	クラスだよりやお知らせボードなどを活用し、保育や行事の様子、子ども達の育ちをタイムリーに伝えることができた。保育公開では、普段の様子を見るだけでなく、遊びの姿や成長の過程を写真で時系列に知らせる工夫等、わかりやすい情報発信に努めた。未就園児の教室はコミュニティセンターと連携を図りながら活動を工夫し行うことができた。今後はさらに、情報提供や活動の様子等、地域や保護者にわかりやすくタイムリーに発信する工夫をしたい。	3.8	4	保育や行事の様子や子ども達の育ちについて発信するとともに、保護者と育ちを共通理解していることを評価いただいた。また地域の子育て教室と連携し、今年度は未就園児教室や園児とふれあう活動の内容を工夫した。今後も様々な方とのふれあいの機会を大切にし人との関わりを幅を広げるとともに、子どもの育ちや園の活動等わかりやすく発信していきたい。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	「主体的に遊ぶ幼児の育成～遊びのプロセスを大切に環境の構成と教師の援助～」という研究主題のもとに取り組んだ。今年度は、出雲市内南ブロック幼稚園の研究保育会場として、保育を公開した。異年齢混合保育の中で「考える」姿を支えていくための遊びの構想や教師の援助等について参加者から意見をいただき、多面的に園児の姿を捉えることができた。日頃から職員間での情報交換を通じ、幼児理解を深めていくことを大切にしたい。	4	4	今年度、本園の取り組みを他園に公開し、様々なご意見をいただき、研鑽を深めることができたことに評価いただいた。その時の様子・成果を情報提供いただきたいというご意見もあつた。保護者・地域にも伝えることで、稗原幼稚園の教育について地域に紹介していくことも検討したい。今後も職員同士が高め合える園内研修に努め、子ども達の成長を支える保育活動を工夫していきたい。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	職員で事務分掌や行事担当を決め、見直しをもった業務遂行に努めた。早めの計画立案に努め、役割分担しながら一人の負担が大きくなりすぎないよう、声をかけ合い計画的に進めるとともに、実施後は反省評価を行い次に生かすよう努めた。今後も働き方改革の一環として仕事の効率性を高める方法を工夫していきたい。	3.5	4	少ない職員で役割分担しながら負担が大きくなりすぎないよう努めていることに評価をいただいた。働き方改革を推進するたご意見もいただいた。今後も見直しをもって計画的に事業を進めるとともに、効果的な保育活動のための教材研究、ICT活用などに取り組んでいきたい。また今後も保護者や地域の協力を得ながら保育活動を進めていきたい。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	コミュニティスクールとして避難訓練を実施し、緊急時の避難やとるべき行動について共通理解を図ることができた。今年度は全職員で緊急時の対応(災害、健康・保健対応等)について話し合い、確認し合うとともに、その反省・評価から計画の見直しにつなげることができた。限られた職員の中で、その場で適切な対応がとれるよう、共通理解を図ってきたい。	3.5	4	能登半島地震を教訓にした防災意識の高揚や、職員同士が災害・緊急時の対応について、共通理解を図りながらさらなる安全対策に努めてほしいというご意見をいただいた。今後もコミュニティスクールで連携を図りながら、緊急時の対応を職員間で話し合い、意識を高め子ども達の安全対策に努めていきたい。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	毎月安全点検を行い、必要に応じて修理、修繕、市への要望を行ってきた。今年度も日頃からの点検によって、早期の修繕につなげることができた。今後も園児が安全・安心な生活を送ることができるよう、定期的な安全点検で早期の対処に努めていきたい。	3.7	4	今後も引き続き定期的な安全点検を実施し、早期の対応に努めているというご意見をいただいた。避難訓練・防犯活動等連携しながら取り組むとともに、施設や遊具などの点検・整備を定期的に行い早期に対応していきたい。

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する